

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2025. 5. 20 N06

挨拶は“近づく”ということ



休日、買い物のため、あるお店に入ると、店員に明るく元気な声で「いらっしゃいませ」と迎えられ、はっとしたことがあります。今はほとんどのお店や会社が客を迎える時の挨拶に関して声や表情などを徹底していると聞きました。そのため、どこのお店に行っても明るく元気な声で迎えてくれるのですが、私が行ったそのお店の方はそれ以上に私の心を明るくしてくれる何かがありました。きっとマニュアル通りに言うということを超えたその方の心そのものを感じたのだと思います。

学校ではめざす子ども像の1つとして「きもちをこめて挨拶ができる子」をあげて、取り組みをすすめています。昨年度、指定を受けた止まってくれた車の運転手さんにお礼を言う「止まってくれてありがとう運動」の効果や児童会・生活委員会、小中一貫の取組など地道な取り組みの成果もあり、昨年後半から今年にかけて「子どもたちが〇〇地区で横断させようと車を止めたらお礼を言ってくれて感激しました」という電話を何度もいただいています。まだまだではありますが、少しずつ、少しずつよい状況が広がっています。

5月には児童会が率先して毎朝、児童玄関前に立って元気に挨拶運動を展開しています。漢字の“挨拶”には“近づく”という意味があります。民間企業が挨拶や電話応対に力を入れるのも顧客の印象をまずは良くし、企業と顧客の距離を近づけるという意味もあるのではないのでしょうか。

子どもたちが“言わなければならない”ではなく、自然に挨拶ができるように関わり、見守っていききたいと思います。

「園長先生から校長先生に…」



毎日、最低1回はすべての教室を授業や子どもたちの表情等を見て回っています。私が「すごい」って思った瞬間は写真に撮り、HPに掲載しています。普段の様子はなかなかみてもらう機会がないため、「少しでも授業の様子や子どもたちの表情を知っていただきたい」との思いで発信をしています。平均1500～2000くらいの閲覧が毎日あります。出張が重なり、なかなか掲載できない日もありますが今後も続けていきたいと思っています。話は変わりますが、

1年生のある教室に行くと私の顔を見て「園長せんせーい」と声をかけてくれる子どもがいます。最初の頃はまわりの子が「校長先生やよ」と言ってくれましたが今は訂正の言葉は周りから入らなくなりました。

本来、「園長ではなく、小学校では校長っていうんだよ」と訂正すべきかもしれませんが、しかし、私は園長として手を振ります。きっとこの子の中に幼稚園の時の園長先生の存在が大きく安心できる存在だったのだろうなと思っています。

だからこの子が小学校生活に完全になじんで、私が園長先生から校長先生として認められることをいつか、いつかと楽しみにしています。(写真と内容は関係ありません)